

国際シンポジウム

権威主義体制下での法の役割と限界 台湾、韓国、シンガポール、そして中国



羅承宗（南台科技大学教授）



陳維曾（シンカポール国立大学法学部准教授）

趣旨

権威主義的政治体制の下での法にはいかなる意義があり、限界や特徴があるのか。台湾から「移行期の正義と法」の研究者、シンガポールから権威主義体制と法の支配、市場的發展を研究する気鋭の研究者を迎えて、台湾、韓国、シンガポールなどの経験に即して、この問題を考察。現在も権威主義体制下にある中国法、抑圧的法の存在意義を問う。

2024年3月3日（日）13時半（開場13時）～18時

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン9階 309E

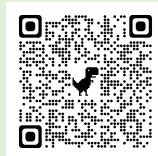
司会 鈴木賢（明治大学法学部教授、現代中国研究所所長）

報告1 羅承宗「『ニセモノの立憲主義、実は訓政』：台湾白色テロ時期の立憲主義と法治の虚像と実像」

報告2 陳維曾「権威主義的法治と市場的發展——もう一つの法の支配モデルの運用、変転、限界」

※報告は華語、日本語通訳あり。

お申し込みはこちら（参加費無料） 3月1日正午まで



主催 明治大学現代中国研究所